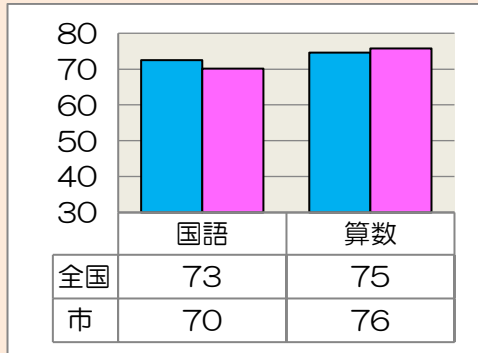
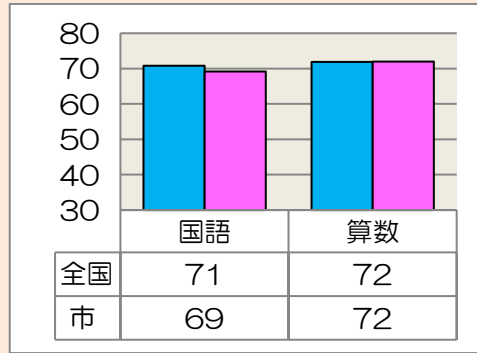


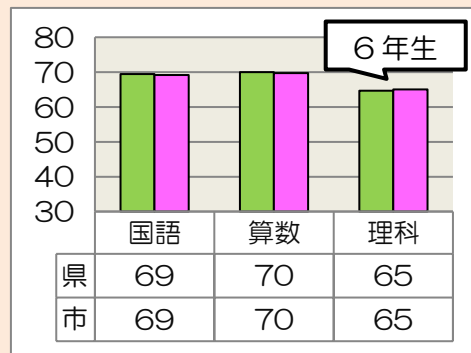
【小学3年生】市学力



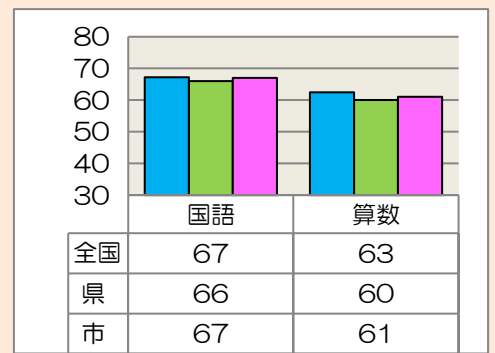
【小学4年生】市学力



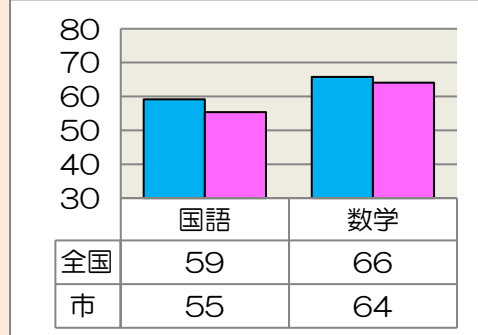
【小学5・6年生】県学力



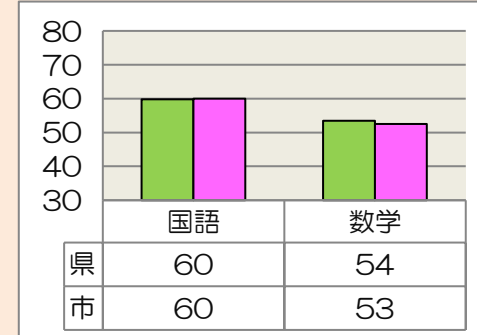
【小学6年生】全国学力



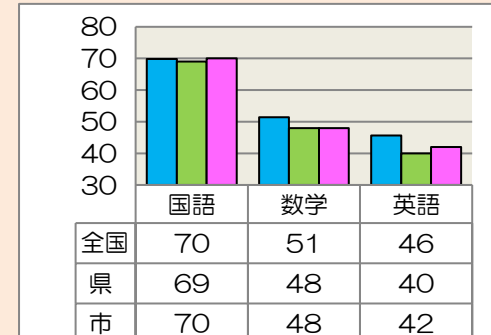
【中学1年生】市学力



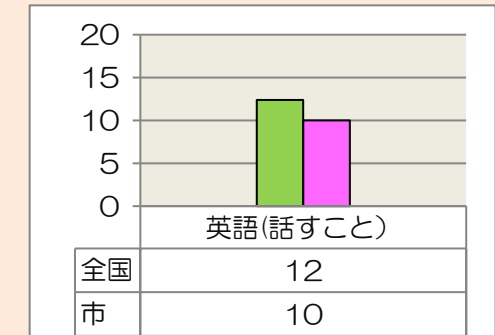
【中学2年生】県学力



【中学3年生】全国学力



【中学3年生】※参考：英語（話すこと）



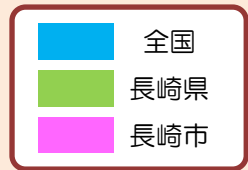
【実施日】

国語科・算数科/数学科・理科・英語科：令和5年4月18日（火）

【各学力調査の対象学年・教科】

- ◇長崎市学力調査
  - 小学3・4年生（国・算）
  - 中学1年生（国・数）
- ◇長崎県学力調査
  - 小学5年生（国・算）
  - 小学6年生（理）
  - 中学2年生（国・数）
- ◇全国学力・学習状況調査
  - 小学6年生（国・算）
  - 中学3年生（国・数・英）

※結果は、正答率（％）で表記



全国学力・学習状況調査結果の概要と改善の方向性

1 学力調査結果の概要

(1) 良好な項目

- 小学校国語科では、「話すこと・聞くこと」の話の中心を捉える問題において全国及び県平均正答率を上回り、成果が見られる。中学校国語科では、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」「文脈に即して漢字を正しく書く」問題において全国及び県平均正答率を上回り、成果が見られる。
- 小学校算数科では、表から変化の特徴や必要な数を読み取ったり、正方形の意味や性質について理解を問うたりする問題で全国及び県平均正答率を上回る成果が見られる。中学校数学では、数と乗法の計算や、問題場面における考察の対象を明確に捉える問題に成果が見られる。また、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題に成果が見られる。
- 小学校理科では、全ての領域で県の平均正答率をやや上回っている。植物の発芽及び成長の条件を考える問題では、県と同等以上であることから、学習内容の定着が図られていると考えられる。
- 中学校英語では、「書くこと」の領域において、会話の内容から推測し、自分の発言として適切な英文を書く問題で、県平均正答率を大きく上回る成果が見られる。

(2) 課題がある項目

- 小学校国語科では、条件に合わせて書く問題において、最も正答率が低い。無解答率も高く、課題が見られる。中学校国語科では、「情報と情報の関係の理解」を問う問題、「根拠を明確にして考える、書く」問題において、全国及び県平均正答率を下回り、課題が見られる。
- 小学校算数科では、示されたグラフから見出した違いや二つの三角形の大小の判断を言葉や数を用いて記述する問題に課題が見られる。中学校数学では、「図形」領域において、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかをみたり、条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ったりすることに課題が見られる。
- 小学校理科では、問題文をしっかりと読み取り、解答条件に沿った答え方で記述する問題に課題が見られる。また、昆虫の体のつくりの平均正答率が県の値より、やや低いことから身近な自然現象等の基礎・基本の定着に課題が見られる。
- 中学校英語では短い文章を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書くことに課題がある。

2 児童生徒質問紙調査（生活習慣や学習環境等の調査）の結果の概要

(1) 良好な項目

- 「基本的生活習慣」の「起床」「朝食」「就寝」の項目において、小・中学校は昨年度全国平均を下回っていたが、今年度は全国平均を上回った。小・中ともに9割を超えており、概ね良好である。
- 「先生は分かるまで教えてくれる」の項目において小・中学校は全国平均を上回っている。中学校では全国平均と同程度となっている。
- 「人が困っているときは進んで助けている」「いじめはいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたい」の項目において、小・中学校ともに全国平均と比べて高く、良好である。
- 「一日あたりの読書時間」の項目において、30分以上読書をする割合は、小・中学校ともに全国平均を上回っており、良好な読書習慣が身につけているといえる。
- 「学級の友達と意見交換をする場面でもICT機器をどの程度使っていますか」の項目において、小・中学校ともに週3回以上使っている割合は、全国平均を10ポイント以上上回っている。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の項目において、小・中ともに全国平均を上回った。

(2) 課題がある項目

- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする」の項目において、小学校では全国平均を上回っているが、中学校では下回っている。
- 「家庭学習」の項目において、小学校では「1時間以上」の割合が全国平均を上回っているが、中学校では「2時間以上」の割合が全国平均を大きく下回っている。また、「計画を立てて勉強をしている」の項目においても中学校では全国平均を下回っている。
- 「地域の行事に参加している」の項目において、小・中学校とも全国平均を下回っているが、昨年度より上昇傾向がみられる。
- 「新聞を読んでいますか」の項目において、「読んでいない」の割合が小学校で75ポイント、中学校で80ポイントを超えており、全国平均よりも新聞を読む児童・生徒は少ない。

3 改善の方向性

- ①基礎・基本定着のための方策 ⇒ (例) 一人ひとりの弱点を克服できるような個に応じた適切な指導やAIドリル等を用いた学習
- ②課題改善のための授業づくり ⇒ (例) 児童・生徒が、課題を自分事として捉え、主体的に学習に取り組む態度を育む授業づくり
- ③家庭学習の習慣化と質的向上 ⇒ (例) 発達段階に応じた課題の質と量を見極め、自主的な家庭学習の習慣を確立する取組
- ④夢や目標に向かって挑戦する力の育成 ⇒ (例) 小学校からのキャリア教育の充実や体験活動を重視した取組
- ⑤チームで取り組む学力向上 ⇒ (例) 全職員が事項の課題を理解し、「学力向上プラン」「校内研修」「研究授業」等を活用する取組

学校・家庭・地域が一丸となった継続的な取組推進